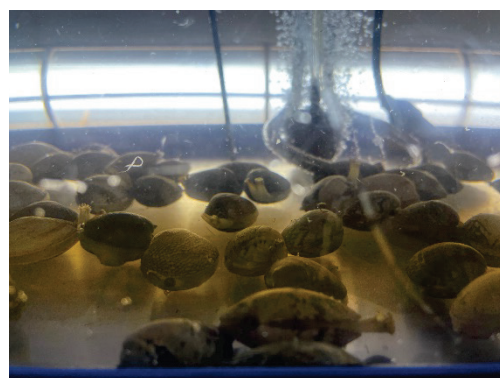


アサリの種苗生産を開始

天橋立に仕切られた阿蘇海では毎年、天然のアサリ稚貝が多く発生し、地元漁業者により府内外へ養殖・放流用種苗として販売されています。ところが近年、稚貝の発生が不安定となっており、稚貝の供給源である親貝の探索および保護が急務となっています。これまでの調査結果を基に、海洋センターでは阿蘇海で養殖されているアサリが親貝として天然稚貝の供給に大きく関与しているのではないかとの仮説を立て、遺伝子を指標として養殖親貝と天然稚貝の親子判定を行うこととしました。

親貝となる種苗を生産するため、10月下旬および11月中旬に2度採卵を行いました。採卵にあたっては、成熟した個体に温度処理や干出処理(陸上に静置)といった刺激を与え、強制的に放卵・放精させます。なお、親子判定には親の遺伝子を単純化させる必要があるため、採卵での雌雄の個体数は最大5個ずつとし、これを一つの群としました。現在、生産した種苗を室内および屋外の飼育施設で飼育中であり、来春には阿蘇海へ移送する予定です。



採卵の様子(左:採卵用水槽、右:温度処理で産卵誘発中のアサリ親貝)